

令和5年度 園評価書

園番号 6

園名 清沢こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取り組み目標等)
心豊かで たくましい子	じっくりやってみよう	① 興味、関心のあることを見つけ、自分なりに考えたり、工夫したりして、楽しむ (自信をもってやってみる)	様々な経験をする中で、友だちと関わりながら、自分たちで園生活を進めていけるようになりつつある	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の頃の園児の姿と現在の園児の姿を比べると、それぞれの園児が自分に自信を持ち、たくましく成長しているように感じる。きらきら劇場 (発表会) での協同も素晴らしい</li> <li>・きらきら劇場 (発表会) で年少児が今年度は堂々とやっていた。子どもの姿から、1年の成長、こども園での取り組みがよくわかる</li> <li>・年長児が1人の中で堂々と自信をもってやり切る姿が素晴らしい</li> <li>・年長児が年少児を助け、引っ張っていき姿が感じられる</li> <li>・年少児にとっては、思いやりのある行動は発達段階にあってハードルが高いと思えます。保護者アンケートでも評価は「B」であり妥当だと思います</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 園だけでは経験できない事 (集団遊び、異年齢児との関わり) を交流を通して経験できるよう年間計画に組み込んでいく→遊びの広がり</li> <li>・小回りの効く良さを最大限活かしつつ発達によっては効かせすぎないように見極めをしながらかかわっていく</li> <li>② 交流活動を通してのコミュニケーション力の広がり (いつもと同じ仲間以外との関係作り)</li> <li>・少人数でも他園、地域との交流活動を通して、様々な人と関わる機会を保障していく</li> <li>・相手 (友だち、保育者等) にも色々な思い、気持ちがあるという事に気付くような関わりや援助をしていく</li> <li>③ 戸外が大好きだからこそ、季節に沿った園庭環境の充実が必要→遊びの保障に繋げる「もっとあそびたい」「明日もやりたい」「こうしてみよう」等々</li> <li>・環境を通して行う保育を自園ならではの追求をしていく (人的・物的・地域・季節・用具・意図等) カテゴリー分けをして年間通して再構成を繰り返しながら深めていく</li> </ul>
		② 自分の思いや気づいたことを、自分なりの言葉や態度で伝えあい、相手の思いを受け入れたり折り合いをつけながら遊びを進める (思いやり)	自分で考えたり、思いを話したりする時間をとり、受け入れてもらったという経験を積み重ねていく。各学年や個々の育ちを明確にして協同性を育む遊びにつなげていく	B	B		
		③ 自分のことを進んで行い、戸外遊びや園外保育を通してのびのびと遊ぶ (元気な子)	・基本的な生活習慣が身に付き、保育者や友だちと関わりを持ちながら、好きな遊びをじっくり楽しめるようになってくる	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	来年度の具体的な取組目標等
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	④ 1人1人の発達や育ちを把握し、今、付けたい力を職員間で確認し合い、豊かな育ちにつながる保育をする	子どもたちの姿を日常的に職員間で伝え合い、発達や育ちの違いに配慮した援助をしていく。子どもたちが多様な体験を通して感性が豊かになるよう保育を展開させていく。職員間で日々の振り返りや検討を進め、共通理解しながら個々の豊かな育ちを保障していく。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 多様な体験をとおして、園児それぞれの発達段階に応じた保育が展開されている</li> <li>・園児それぞれの発達度に応じた保育ができていると感じた。きらきら劇場 (発表会) でもそれがよく出ていた</li> <li>⑤ 園児へ支援する職員の姿から園児一人ひとりを大切に、個々の育ちに対応した保育を行っていることがうかがえた</li> <li>・年少児は保育士に導かれ、年長児はしっかりと自信を持って取り組んでいた</li> <li>⑥ こども園日より、清沢の四季に応じた教育及び保育が展開されていることが理解できた</li> <li>・台風の影響で川や道路工事が色々な場所であるので、川遊び等が十分にできなかったと思いますが、園外保育等自然と触れ合える場を多く取り入れている所がとても良いと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度の反省のみでなく、写真を活用した事例検討や視点を絞った10分トーク等取り入れ多角的に子どもを見ていく</li> <li>・少人数で子どもの姿や発達が見えすぎてしまう側面もある為「この子はこういう子」という固定概念を持ちすぎず常に新しい目で見えることを意識していく</li> <li>・子どもの小さな変化や成長の姿に気付き、些細な事でも職員間で共有し、必要に応じ、生活リズムを改善していく</li> <li>・幼児期から生活習慣を身につけていく事の必要性を子ども、家庭共にポジティブに伝えていく</li> <li>・遊びのコーナーの見直しや再構成、環境の工夫</li> <li>・令和6年度ならではの清沢を探検し、新しい目線での発見をし、地域を知り、深める取り組みを行う</li> <li>・季節ごと、自然を生かした遊びや環境構成の工夫</li> <li>→環境面に特化したボードを作成して発信していく</li> </ul>
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	⑤ 1人1人の気持ちを温かく受け止め、個々の生活リズムや発達を配慮しながら保育を行う	各家庭の様子や生活リズム、個々の育ちを理解し、生活習慣、生活リズムの定着を図る	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	⑥ 身近な自然環境や地域の様子を保育に効果的に取り入れ主体的にかかわり豊かな体験に繋げる (清沢マップ)	清沢ならではの自然を取り入れ、自分から遊びたくなるような環境作りを意識し、主体的な生活ができるようにしていく	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	⑦ 安心安全なこども園になるようにヒヤリハットの共有・あらゆる状況を想定した訓練を重ね、子ども、職員の安全意識を高める	子どもが自分で自分の命を守ることができるようになるよう様々な状況を想定した避難訓練を計画的に行う。普段の保育の中で安全について意識できるようにヒヤリ、ハットしたことを取り上げ改善策を職員間で共有するとともに、子どもたちとも話し合っていく	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 行事や公開保育、清沢小への来校時の様子から、安心・安全を優先した取組が行われていると感じた</li> <li>・安心、安全なこども園を考え厳しい評価をしていると感じました</li> <li>⑧ 園児の身だしなみなどの様子から、発達段階に応じた基本的な生活習慣が身に付きつつあることがわかった</li> <li>・食育活動がすばらしいと思えます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度環境の見直しに着手し改善してきた事を引き継ぎ、来年度にも繋げていくと共に、職員全員の危機管理意識の統一</li> <li>・ヒヤリハットについて改めて意義を見直し、共通理解をする</li> <li>→ヒヤリハット事例は毎月の会議、または即時報告し原因、対策を全職員で共有する</li> <li>・自然に囲まれた清沢の中で、自分の命は自分で守るという事について今年度に引き続き深め、子どもたちに発信していく</li> </ul>
		(1)健康教育の充実	⑧ 基本的な生活習慣が身につく、健康で楽しいこども園生活を送れるように指導する。また、食育活動を通して、子どもの食への関心が広がる	給食時や降園前に話をしたり、保育に取り入れたりと、「早寝早起き朝ごはんや何でも食べる子元気な子」の大切さを子ども自ら意識していけるようにしていく	A		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	⑧ 基本的な生活習慣が身につく、健康で楽しいこども園生活を送れるように指導する。また、食育活動を通して、子どもの食への関心が広がる	給食時や降園前に話をしたり、保育に取り入れたりと、「早寝早起き朝ごはんや何でも食べる子元気な子」の大切さを子ども自ら意識していけるようにしていく	A	A	⑨ 学級ごとのたよりから、子ども一人ひとりの興味・関心・特性等に応じた丁寧な支援がなされ、子どもの確かな成長に繋がっていることがうかがえた	・食育活動を保護者参加の行事に組み込む事も発信に繋がる
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	⑨ 個々の発達を職員間で共有し、理解しながら、一人一人に合った丁寧な関わりを行う	全職員で共通理解を図り連携した支援を行い、確かな育ちに繋げていく。家庭との連携を丁寧に行っていく	A	A	⑩ 運動会やきらきら劇場、公開保育での職員の動きから、お互いのりしろのある仕事をされ、組織として機能していることがうかがえた	・クッキングの実践を行う際は、子どもたちが主体となり、意図、ねらいを明確にしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	⑩ 園運営に対して職員間で情報を共有、共通理解し、PDCAサイクルを基盤に重点目標実現に向け、子どもの育ちを援助していく	行事の立案や準備だけでなく、園組織の体制や分掌について責任をもって取り組めるように職員会議で確認していく。準備、片づけについてもものりしるをもち参画し評価や次の計画は早めに行えるようにする	B	A	⑪ こども園の教育・保育活動の充実ぶりから、保育の質の高まりを感じた	・個々にスポットを当てて育ちの確認や願いなど明確にしていく
6 研修	(1)研修体制の充実	⑪ 週1回の研修日を設け園全体研修、個人研修の時間の確保をし質の高い保育の実現をする	子どもの興味関心を探り、研修の視点がぶれないように、園内研修を進めていく。保育者の主体性を高めることが、子どもの主体性を高めることにつながるため、一人ひとりが意識し、自己課題の解決に当たる	A	A	⑫ 運動会やきらきら劇場、学級のたよりの子どもの様子から、試行錯誤しあきらめずに挑戦した成果がうかがえた	・ケース検討を年間計画に入れて実施する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	⑫ 日々の子どもの姿を見取り、遊びこめる環境を作る。保育者も試行錯誤しながらあきらめずに挑戦しようという気持ちに繋げていけるように保育を行う	認められた喜びが自信につながるように、身近な人から認められたり、友だちと認め合ったりする場を増やしていく	A	A	⑬ 運動会やきらきら劇場、学級のたよりの子どもの様子から、試行錯誤しあきらめずに挑戦した成果がうかがえた	・写真や動画を使った事例検討も時期を決めて計画的に引き続き行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	⑬ ドキュメンテーション等を活用し、遊びの中での育ちをを発信し、保護者との信頼関係を築く中で、相互に子どもの育ちを支える	家庭と子どもの表れや育ちを共有し、信頼関係を築いていく。園の教育、保育と家庭教育の必要性も保護者の理解を得られるように具体的に話をしていく	A	A	⑭ 清沢小学校との連携は、自然な形でできているように思います。他園との交流もこども園日より丁寧に行われていることがわかった	・来年度は清沢小が統合され、園児も2名のスタートなので、今までと同じではなく、こども園ならではの行事を検討し進める
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	⑭ 近隣のこども園や小学校との連携を図り、子どもの育ちや情報交換をしながら、相互理解を深め円滑な接続に繋げていく	近隣小学校やこども園の研究授業や行事に計画的に参加したり話し合いを行い情報交換をしたりして、教育・保育について理解していく	A	A	⑮ 運動会やきらきら劇場の行事では、家族や来賓も参加できて清沢こども園ならではの雰囲気を感じる	・行事の企画案、内容検討を計画的に進められるよう見直ししていく (企画が早すぎて内容検討が甘くなった反省を踏まえて)
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	⑮ 保護者や地域の方へ情報を発信して教育・保育活動への理解を深める	地域の行事へへの参加や園日よりなどを通して情報を発信していくことで、地域の方から園に関心をもってもらい多くの協力を得られるようにする	A	A	⑯ こども園日より各種行事をとおして、こども園の現在について、地域への情報発信ができていっていると感じている	・これまで研修内容は計画してきたが、次年度は更に内容を絞り、意図を明確にしていく。